三重県多気郡明和町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告10

史跡 斎宮跡

平成4年度現状変更緊急発掘調査報告

平成6年3月

明和町教育委員会

序

幻の宮とも言われた斎宮跡は、昭和45年以来の発掘調査によりその姿を次第に現し、昭和54年３月27日国史跡に指定され、今年で15周年を迎えます。これを記念に町では９月に「王朝ロマンフェスタｉｎ明和」と題して、斎宮にちなんだ野外音楽群集劇を予定しています。これは、町あげて取り組むイベントで、町内はもとより町外全国へ向けて「斎宮」の名を知っていただけるようにアピールする目的もあります。

史跡西部の斎宮歴史博物館を中心としたその周辺の史跡環境整備も年々進められ、斎宮をおとずれる方々の受皿つくりも今後ますます必要度を増してくるものと思われます。一方その反面では、史跡と現代の生活が重複している斎宮跡の特殊性からは、日常の生活に伴う現状変更も後をたたず、本年度の申請数としては41件を数え、その内事前の発掘調査の必要なものが６件あり、その成果はこの報告書にまとめられました。中でも第96－５次調査で発見された八脚門は、昭和45年から始まった斎宮跡発掘調査でも初の発見例となり、方格地割の南限を確定する大きな成果を得たと言えましょう。

最後になりましたが、発掘調査には地元の方々のご理解と、ご協力をいただき、また、発掘調査、整理作業、報告書の執筆作成等にあたりましては斎宮歴史博物館調査研究課のご協力を賜りました。末筆ではありますが、深く感謝の意を表する次第であります。

平成６年３月

明和町教育委員会

教育長　世古　博

例　　言

1．本書は明和町が平成4年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。なお、平成4年度に実施したうち第96－1・3・4・5・6次調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第96－2次調査は、原因者である明和町が費用を負担したものである。

2．調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町斎宮跡保存対策課が担当した。

3．発掘調査・整理及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏及び明和町教育委員会斎宮跡対策課の森田幸伸があたり、赤岩操、大瀧靖子、島村紀久子、角谷和代、鈴木美智子、奥田康子がこれに協力した。

4．遺構実測図、遺構番号、遺構表示などはすべて斎宮歴史博物館刊行の調査概報に準じている。また、遺構の時期については『三重県斎宮跡調査事務所年報1984』所収の「斎宮跡の土師器」による。

目　　次

1．前言…… 1

2．第96－1次調査…… 2

3．第96－2次調査…… 4

4．第96－3次調査…… 6

5．第96－4次調査…… 8

6．第96－5次調査……10

7．第96－6次調査……13

付．現状変更等許可申請と立会い調査……15

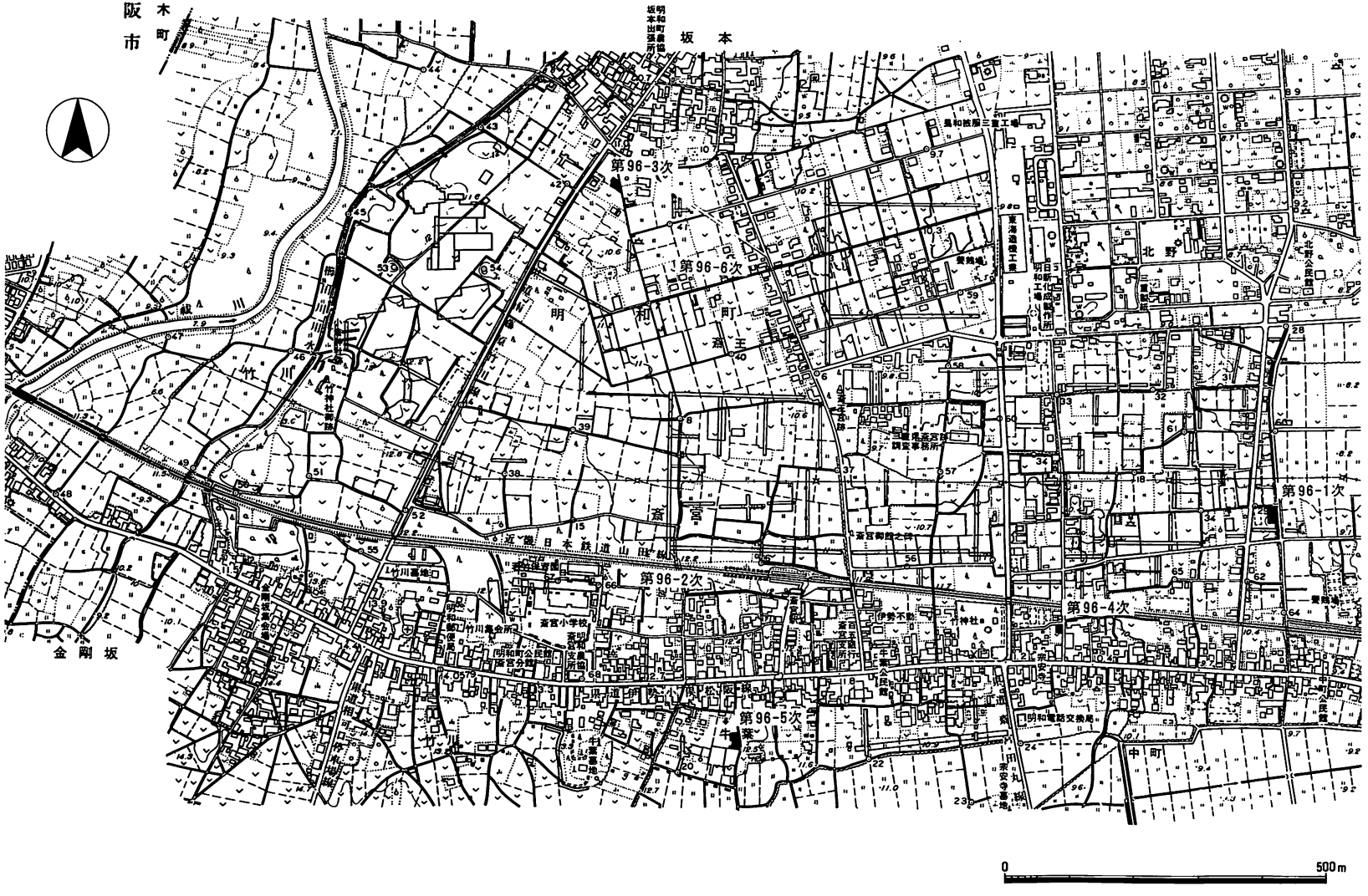


fig. 1　発掘調査個所位置図（1：10,000）

1．前　　言

平成４年度の史跡現状変更等許可申請は、41件であった。その内事前調査を必要としたものは、前年度からの申請２件を含めて６件であり、その調査面積は895㎡であった。その６件のうち５件は、個人から申請された住宅や倉庫の新築、盛土に伴うもので、斎宮跡保存管理計画における第２種保存地区（１件)、第３種保存地区（４件）にあたり、調査終了後許可され、盛土等で遺構を保護して着工された。残り１件は、史跡内住民の生活環境整備に伴う公共事業であり、斎宮駅へ通じる町道側溝を改修して、道路幅員を拡幅するもので工事に先立ち、掘削の深い側溝部分を発掘調査した後、工事を進めた。

以上、６件の調査は、小規模な面積にもかかわらず、貴重な成果も得られた。まず、史跡東部の第96－１次調査では、方格地割の東限と言える南北溝が検出された。また、これまでの調査の成果で、中枢部と考えられる方形区画内で行われた第96－４次調査では、企画的に配置された大型掘立柱建物が検出された。また、史跡南端に近い第96－５次調査では、八脚門と大型掘立柱建物が検出された。特に八脚門は、これまでの斎宮跡発掘調査の中で初の検出例であり方格地割の南限を確定する上でも極めて大きな成果を得たと言えよう。

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(㎡)	補助金事業調査件数	補助金事業調査面積(㎡)
S54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	50	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825

2．第96－1次調査（6AGM）

調査場所　多気郡明和町斎宮字東加座2374

原　　因　盛土

調査期間　平成4年5月25日～6月10日

調査面積　320㎡

(1) はじめに

第96-1次調査は、史跡指定地の東限付近を南から北に流れるエンマ川の西側に隣接する水田の埋め立てを内容とする史跡現状変更等許可申請に伴い、その事前調査として実施したものである。周辺では今回の調査区のすぐ西側に隣接して昭和61年度に第69次調査が実施されており、奈良時代後期～平安時代前期の掘立柱建物をはじめとする多くの遺構が検出されている。また、小規模ながら数次にわたる調査により、エンマ川が斎宮跡における方格地割の東限にほぼ一致することが明らかにされている。

今回の調査は、この東限を画する溝の検出や水田部分での遺構の残存状況を知る上で貴重な機会となった。

(2) 調査概要

調査区は、周囲の畑地に比べて一段下がった水田となっているため、当初からすでに遺構が削平されていることも予想された。調査の結果、開田によるものとみられる攪乱が調査区全面に広がっており、調査区東側に沿ってこれまでの調査で確認されているＳＤ0368の延長部分を確認したのみで、他に明確な遺構は検出できなかった。

今回検出したＳＤ0368は西側の肩部が確認され、概ね断面Ｖ字状に掘り込まれているものとみられるが、底部には至らず、深さや形状は明らかにはできなかった。

主に包含層から緑釉陶器2点や20点ほどの製塩土器片が出土した。また、第69次調査などで平安時代後期とされるＳＤ0368からは、今回は主に平安時代前期を中心とした土師器片・灰釉陶器片なども出土している。

(3) ま と め

斎宮跡における方格地割の東限に比定される南北溝を確認し、この溝が他の区画溝に比べて深さなどの点で大規模であることがあらためて確認されたが、他の遺構は後世の削平により明らかにはならなかった。しかしながら、今後周辺の調査の進展により、当該地の斎宮における位置づけの想定が期待される。

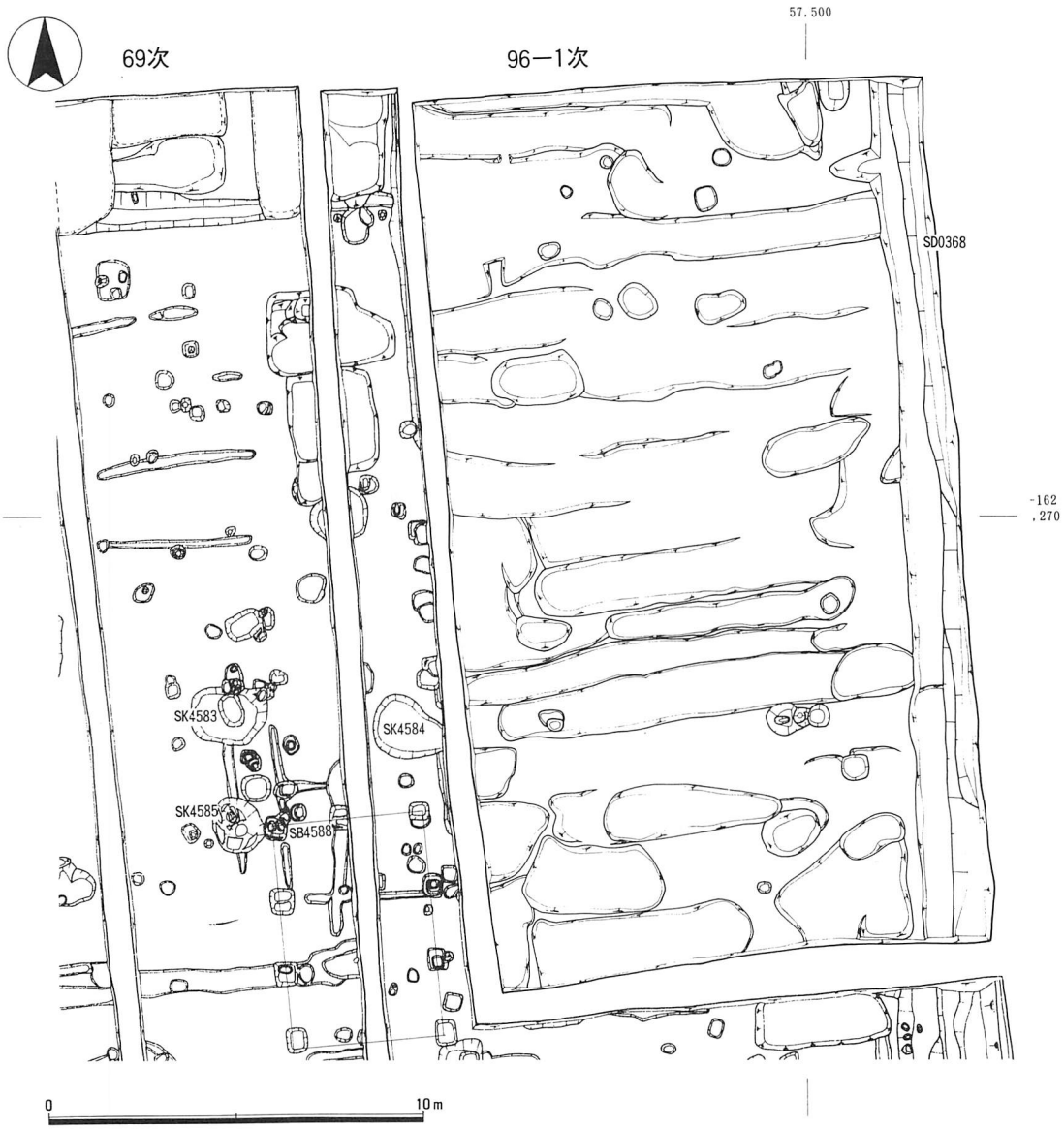


fig. 2　第96−1次調査区遺構実測図（1:200）

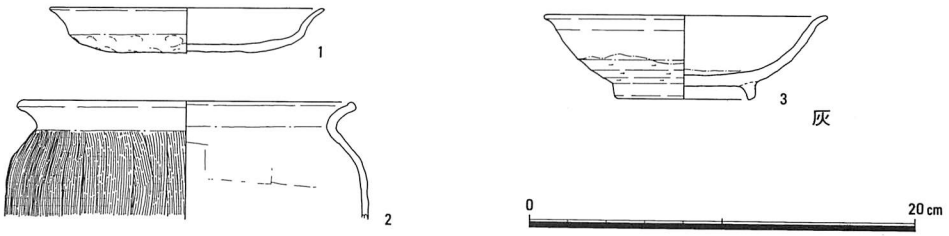


fig. 3　第96−1次調査出土遺物実測図　SD0368；1〜3（1:4）

3．第96－2次調査（6ADO）

調査場所　多気郡明和町斎宮字内山3068-3他

原　　因　町道側溝の改修

調査期間　平成4年11日24日～12月3日

調査面積　70㎡

(1) はじめに

当該現状変更は、旧参宮街道沿いの住宅地域の中で近鉄斎宮駅から西に至る幅約1.5mの町道につき、その側溝を改修することで幅員を確保するもので、本調査は史跡指定地内に居住する住民の生活環境整備に係わる事前調査である。調査は事業地のうち拡幅される部分を対象とし、幅約0.8m、延長約90mについて実施した。

なお、事業地の東半約64mについては、既に現在の下水溝・上水道等の敷設の際に遺構の攪乱を受けていることが確認されたため、工事立会いとした。

当調査地の周辺では、近鉄斎宮駅の駅舎改築に伴う第89-1次調査など、小規模ながら数次の調査が行われており、溝や土坑等が分布していることが確認されている他、狭小な調査面積に比べ、細片ながら比較的多量の緑釉陶器片の出土が知られている。

(2) 調査概要

遺構は、調査区が狭隘な上、後世の攪乱が多いため、遺構の分布状況が充分に把握されたとは言いがたい。わずかに東西方向に続く鎌倉時代の溝ＳＤ6820を1条検出した他、小規模なピットを散見するにとどまった。

遺物の出土量もあまり多くはないが、ＳＤ6820等から山茶椀片・土師器片が出土している他、調査区全般に鎌倉時代の遺物の分布が大勢を占める。また、緑釉陶器がわずか1点ながら出土している。

(3) ま と め

今回の調査区は幅が狭く、現在の住民生活の場と重複しているため、攪乱も多く、今回の調査成果のみで新たな進展を望むことはできないが、今後の参宮街道沿いの住宅密集地での調査成果の蓄積の一端となるものと言えよう。

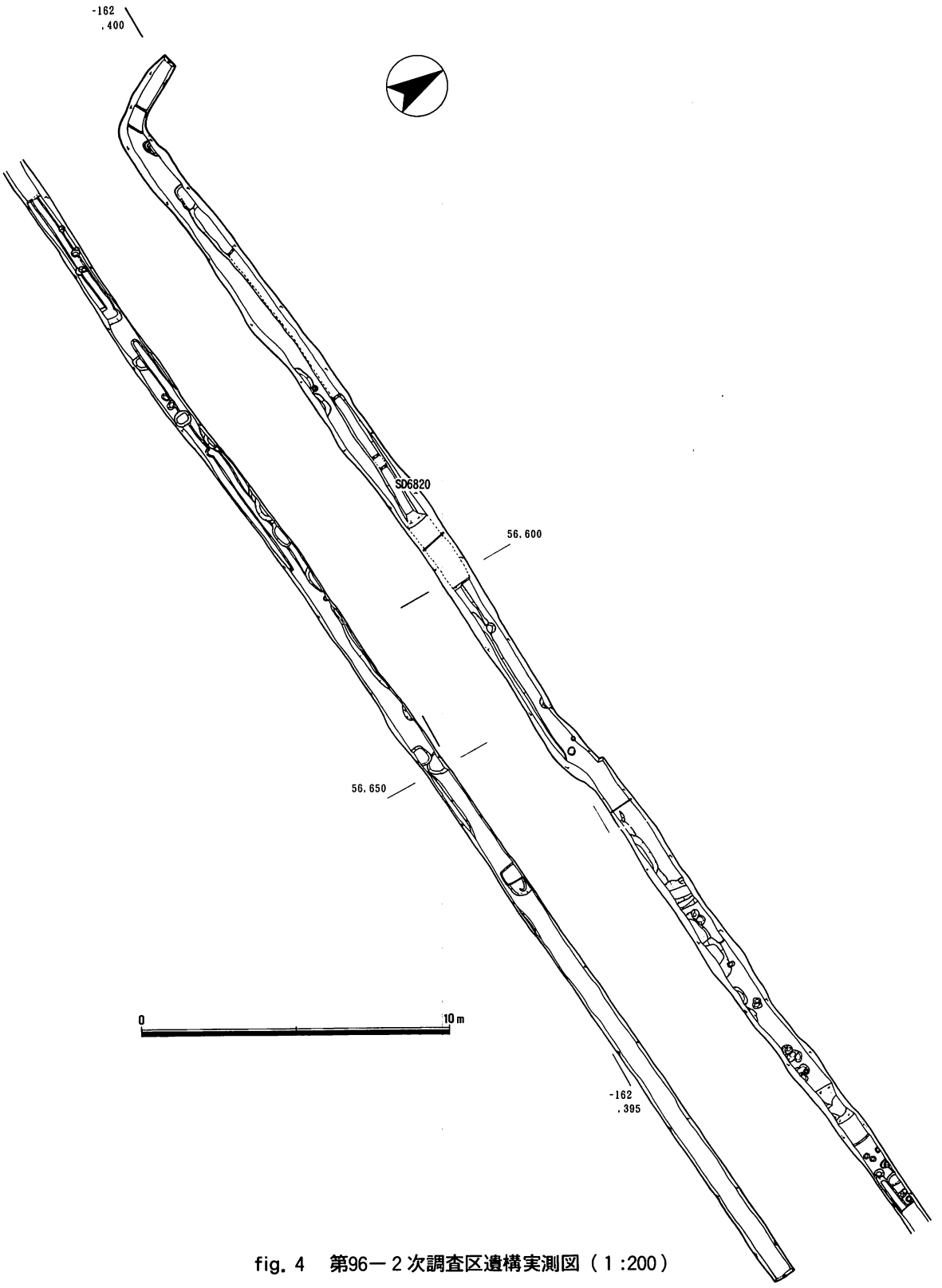


fig. 4　第96－２次調査区遺構実測図（１:200）

4．第96－3次調査（6ACA－D）

調査場所　多気郡明和町斎宮字古里3260

原　　因　個人住宅の新築

調査期間　平成4年12日12日～平成5年1月11日

調査面積　120㎡

(1) はじめに

本調査は、個人住宅建設の盛土工事に先立って調査されることとなったものである。調査地は史跡の北限に近く、周辺では第41次のトレンチ調査以外には計画調査がほとんどおよんでいない地域である。第41次調査のトレンチでは、今回の調査地から約100mあまり南方で、史跡の北部をゆるやかに弧を描いて巡る鎌倉時代の大溝の一部が見つかっている。現状変更にかかわる調査では、南東の第43-1次調査で、現道に直行あるいは並行する奈良時代や平安時代の溝が見つかっている他、「美濃」刻印の須恵器が出土していることが注目される。西方の第31-6次調査では奈良時代の掘立柱建物や溝が、第53-3次調査では奈良時代後期の土坑と鎌倉時代の溝が見つかっている。

以上のように、この一帯は調査密度が高いとは言いがたいながらも、従前史跡西部に対して指摘されているように、今回の調査でも奈良時代及び鎌倉時代の遺構が分布することが予想された。

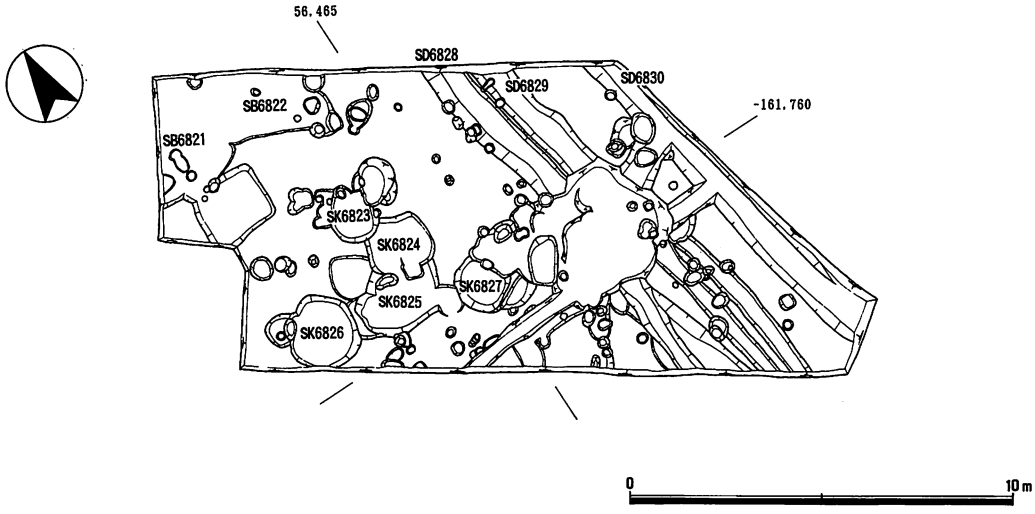


fig. 5　第96－3次調査区遺構実測図（1:200）

(2) 調査概要

調査の結果奈良時代の竪穴住居２棟、土坑５基、溝１条の他、近世以降の溝が見つかった。ＳＢ6821・6822は調査区北西端にあり、調査区外に延びているが、一辺４ｍ弱の方形になるものと考えられる。ＳＢ6822の東壁にはカマドの痕跡とみられる焼土が集中し、奈良時代前期の土師器・須恵器類が出土した。土坑は円形あるいは不整形のもので浅く、主に奈良時代前期と後期の土師器類が出土している。特にＳＫ6824からは土師器甕・杯・把手付鍋・甑の破片が集積していた。溝は近世以降のものが大半で、調査区東に隣接する現道に並行する形で南北方向にのびている。但し調査区東端の近世の溝に切られるＳＤ6830は奈良時代まで遡る可能性がある。

(3) ま と め

今回の調査では、奈良時代を中心とする遺構が発見された。ＳＫ6824では奈良時代後期の比較的まとまった土器資料が得られたと言える。また、ＳＤ6830に可能性が指摘できるように、現道に並行する溝が想定し得る点は、奈良時代におけるこの一帯の土地利用を考える上で今後の調査の中でも検討していかなければならない課題であると言えよう。

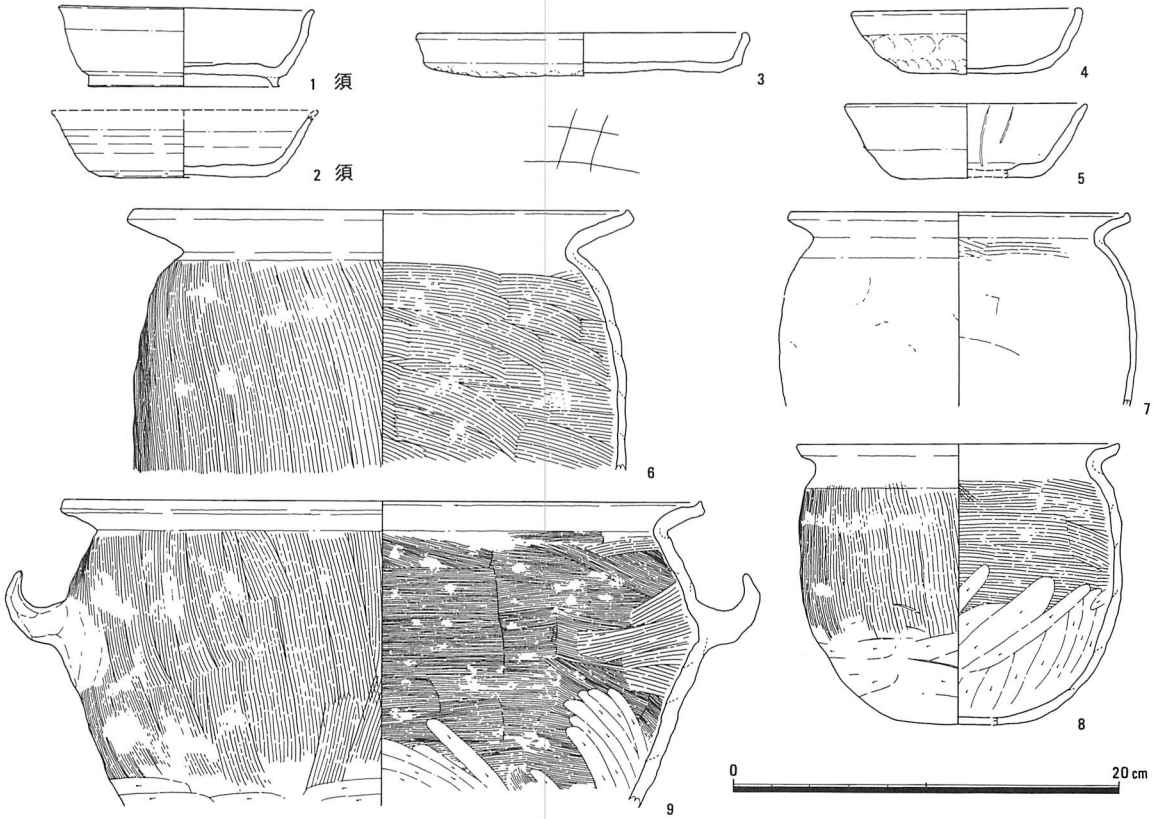


fig. 6　第96－３次調査出土遺物実測図　ＳＫ6824；（１：４）

5．第96－4次調査（6AFN）

調査場所　多気郡明和町斎宮字中西2749-1

原　　因　個人住宅の新築

調査期間　平成5年2日10日～平成5年3月10日

調査面積　130㎡

(1) はじめに

第96-4次調査は、旧参宮街道に沿う住宅地域の中に位置し、竹神社の東約60mの位置にある。地目は雑種地で、これまで駐車場とされていたところであるが、個人住宅の新築にともない、その事前調査として実施されることとなった。周辺は住宅の密集地域であるためこれまでほとんど発掘調査が及んでいない。しかし、近鉄線を隔てた北側では第44次や第98次など、数次にわたる計画調査が実施され、柵列・大型掘立柱建物・大量の土器を出土した土坑など、注目される遺構が分布することが知られている。

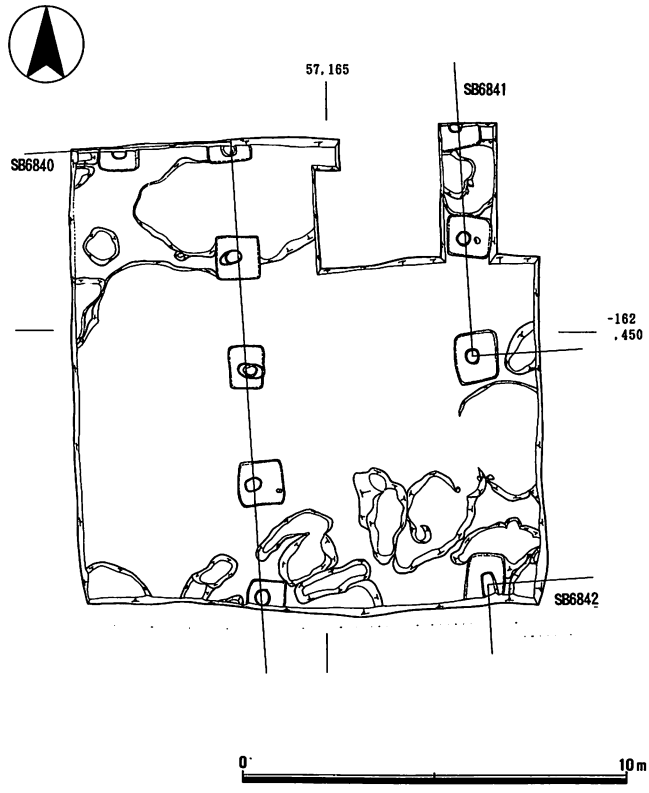


fig. 7　第96－4次調査区遺構実測図（1:200）

(2) 調査概要

調査区は、駐車場として利用されていたこともあって、砕石や山土による盛土がなされており、現地表面から約1.2mで、ようやく遺構検出面に達する深さであった。

検出された遺構は、大型の柱穴10ケ所を確認したのみで、他に明確な遺構は全く認められなかった。これらの柱穴はそれぞれ一辺1m前後を測り、3棟の掘立柱建物のそれぞれ一部分であると考えられる。SB6840は（6）間×（2）間の南北棟、SB6841は（?）間×（2）間、SB6842は（?）間×（2）間の東西棟と想定され、柱間はいずれも10尺（約3m）

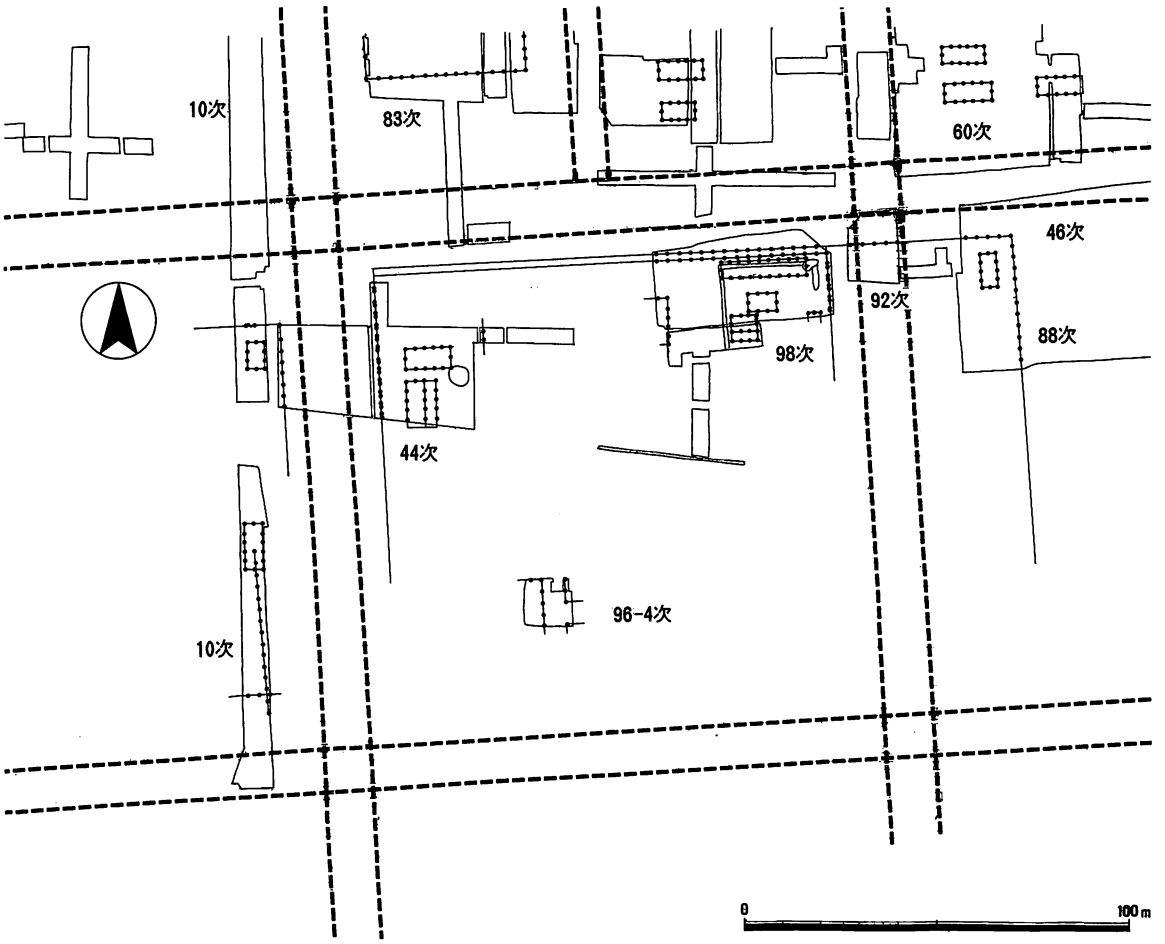


fig. 8　第96－4次調査区周辺主要遺構分布図（1:2,000）

※破線は区画道路側溝、実線は既調査区、黒丸は検出された柱穴を示す。

を測る。柱穴の深さは0.4m前後と浅く、既に少なからず削平をうけているものとみられる。

遺物の出土量は極めて少なく、若干の中・近世土器片の他、緑釉陶器1片を含む数片の平安時代のものとみられる土師器片が出土したのみである。

(3)　ま と め

第44次調査や第98次調査などの成果によって、その性格・内容について非常に注目される方形区画内の調査であり、その中央付近で大型の掘立柱建物群が企画的に配置された様相の一端が確認された点は極めて大きな成果であるといえる。しかしながら、遺構の全貌がつかみきれない点、出土遺物が僅少である点から遺構の時期決定が十分でないなどの課題も含め、現在これらの遺構の評価が確定され得る段階ではない。今後の周辺地域の発掘の進展とともに、広範囲にわたる遺構の有機的な関連の中で今回検出した遺構の性格などを分析していきたい。

6．第96－5次調査（6ADR－T）

調査場所　多気郡明和町斎宮字木葉山128-3

原　　因　個人住宅の新築

調査期間　平成5年2日15日～平成5年3月25日

調査面積　230㎡

(1)　はじめに

第96-5次調査は、旧参宮街道沿いに続く住宅密集地域の南に位置する畑で、個人住宅の新築を内容とする史跡現状変更申請が出されたため、その事前調査として実施されたものである。この周辺では、個人住宅や農業用倉庫の新築などの現状変更申請が多く、小規模ながら数ケ所でこれらに先立つ事前調査が行われており、大型の掘立柱建物とみられる柱穴や、溝などが検出されている。

(2)　調査概要

遺構面は浅く、現地表面から0.2mほどで達する。検出された遺構として、八脚門及びそれに取りつく塀、大型の掘立柱建物1棟がある。八脚門ＳＢ6850は設定した調査区の南端で発見された。柱穴は7個発見され、さらに調査区の東と南にのびている。規模は桁行総長約8.8mで、柱間は正面間約3.6m（12尺）、両脇間約2.6m（9尺）、また、梁行総長 は約4.2mで、柱間が約2.1m（7尺）等間である。柱掘形はいずれも一辺約1.2m前後、 深さ約0.8mである。この門は、その立地状況から考えて、史跡の南限に面する大型の門である事は確実である。遺構の時期は、柱穴から散見される土師器片からは平安時代初期のものと想定することができる。また、この八脚門の西側で一部拡張した調査区からは門とほぼ同規模の柱掘形をもつ大型の柱穴が柱間約3.1m隔てて1個検出された。これはかつて昭和60年度に第58-6次調査で検出された1個の柱穴を経て、さらに昭和62年度の第70-3次調査で大型の掘立柱建物（ＳＢ5110）として検出された3個の柱穴に連続する事が明らかとなった。八脚門ＳＢ6850の東西の中軸線から西へ約52m続き、北へ直角に折れて伸びる柱間約3.0m（10尺）の塀ＳＡ6849が想定される。これは東西約106mの範囲を取り囲み、その南面中央に八脚門が位置するものとみられる。

調査区北端で発見されたＳＢ6845は八脚門とほぼ同規模の柱掘形を持つ大型掘立柱建物である。時期もほぼ同じものとみられ、八脚門とは約19m隔てた位置に棟方向を揃えている。ただし両者は僅かに柱節がずれる。建物の東端は未確認だが、規模は5間（12m）×2間（4.8m）で柱間寸法は約2.4m（8尺）の東西棟とみられる。

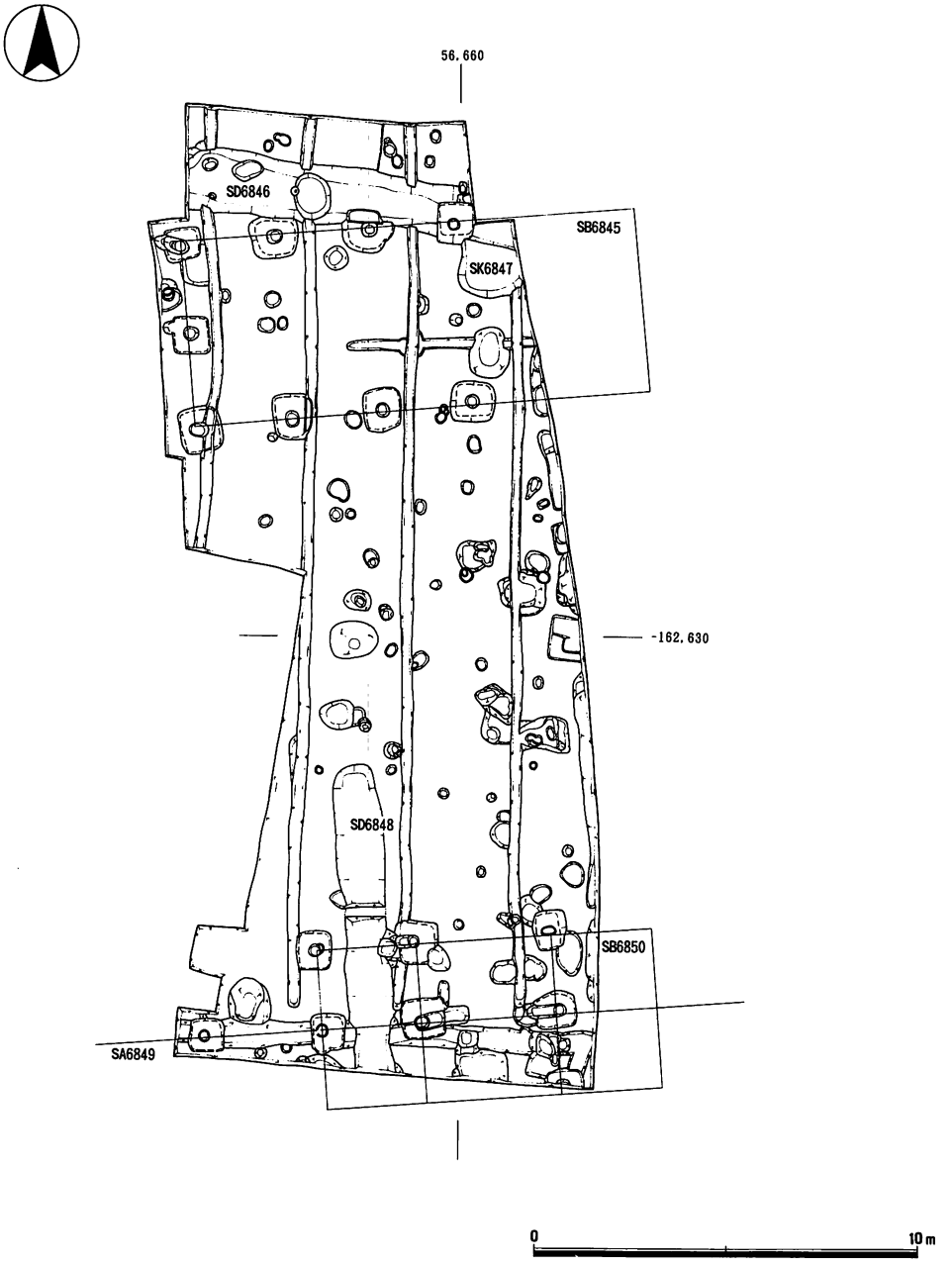


fig. 9　第96－5次調査区遺構実測図（1:200）

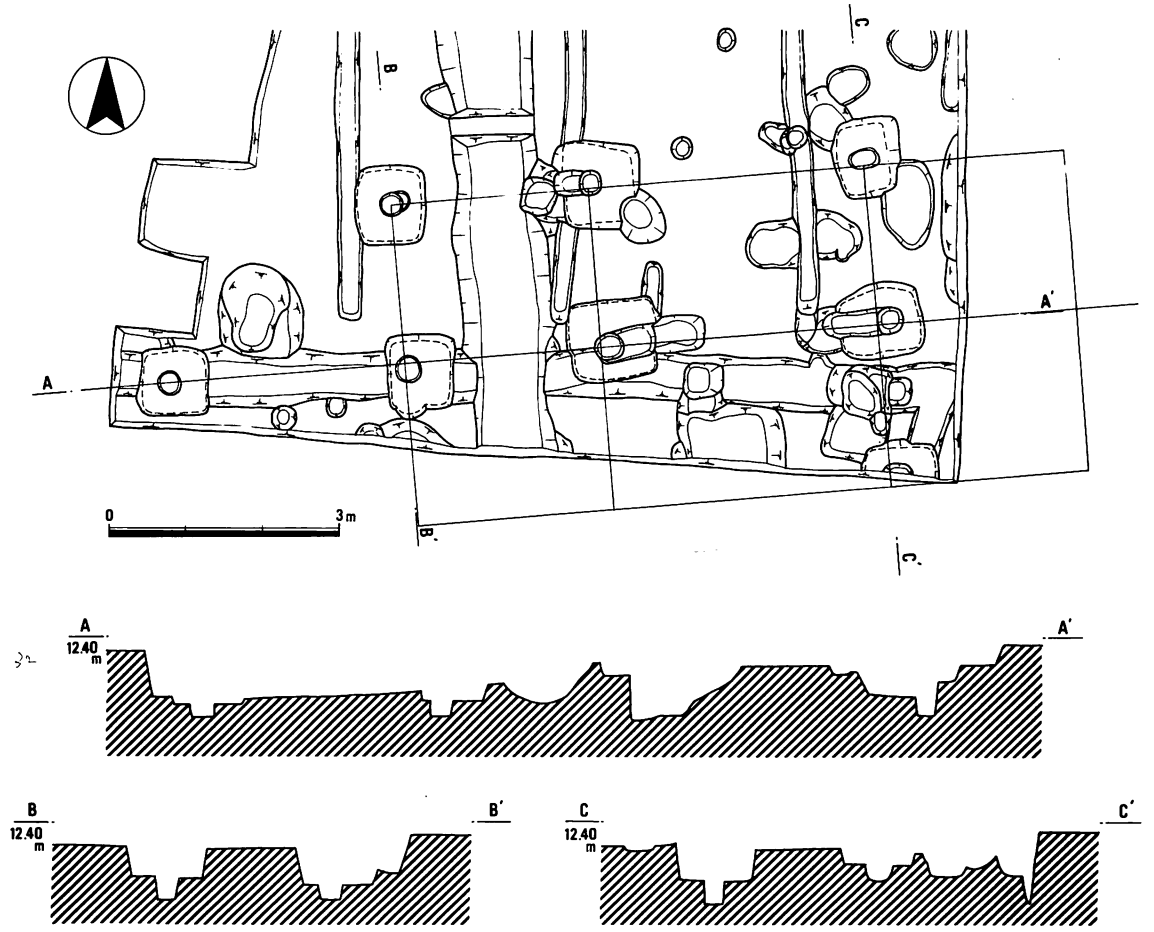


fig.10　ＳＢ6850実測図（１:40）

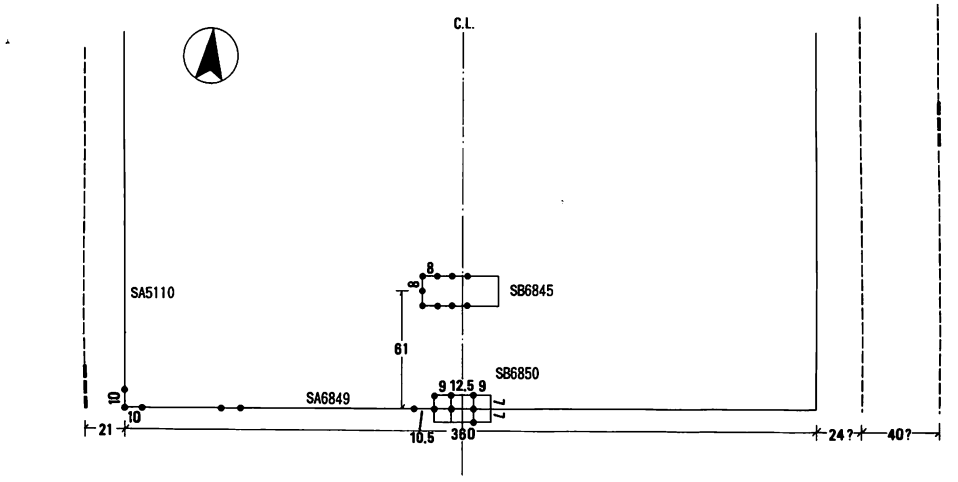


fig.11　第96－５次調査区周辺主要遺構模式図（単位：尺）

これら遺構の重要性に比べ、遺物の出土量は少なく、柱穴から若干の土師器片などが見られた他、ＳＤ6846から山茶椀などの中世土器が出土したにとどまる。

(3) ま と め

今回の調査は史跡現状変更に伴う限られた範囲のものであったが、八脚門の発見は20数年におよぶ斎宮跡の発掘調査では画期的なことであり、宮域南限の確定や、史跡東部で確認されてきている方格地割の広がり等、今後の斎宮跡の理解・解明にとって極めて有意義な成果を得ることができた。また、今回のような旧参宮街道以南の地域においても、着実な調査の蓄積が必要であることをあわせて示していると言えよう。

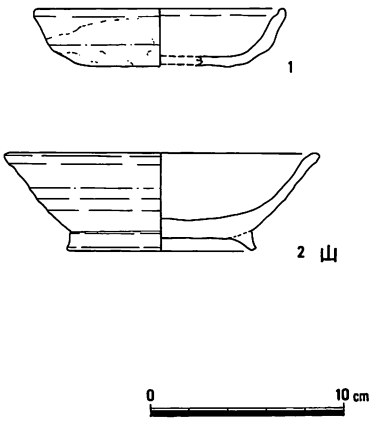


fig.12 第96－５次調査出土遺物実測図
ＳＢ6850；１、ＳＤ6846；２（１：４）

7．第96－６次調査（６ＡＤＤ－Ｄ）

調査場所　多気郡明和町斎宮字篠林3138-1
原　　因　個人住宅の新築
調査期間　平成５年３日４日～平成５年３月18日
調査面積　25㎡

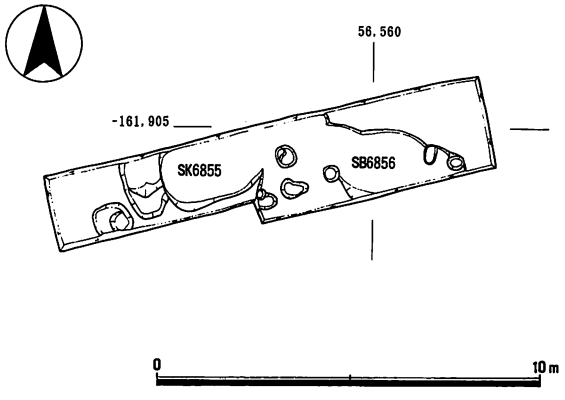


fig.13 第96－６次調査区遺構実測図（１:200）

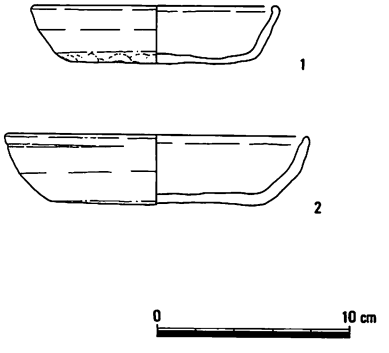


fig.14 第96－６次調査出土遺物実測図
包含層；１，２（１：４）

(1) はじめに

第96-6次調査は、史跡北西部を通る町道「歴史の道」沿い、博物館の東方約220mの位置にあたる。周辺では近年住宅の新築に伴い小規模ながら史跡現状変更による緊急事前調査が増加しているが、計画調査はほとんど及んでいない地域である。しかし、第33次調査では奈良時代の竪穴住居18棟が検出され、第41次調査のトレンチでは史跡を南西部から北辺部にかけて巡る平安時代末期～鎌倉時代の大溝が確認されるなど、奈良時代と鎌倉時代の遺構の分布が卓越することが知られている。

(2) 調査概要

調査区は現況で畑地となっており、幅約２ｍのトレンチを設定した。現地表面から約0.6ｍで遺構面に達したが、遺構としては浅い不整形の土坑が重複して検出された。ＳＢ6856は西側でＳＫ6855と切り合っているが、トレンチの東隅で角をもつことから一辺約５ｍの竪穴住居と判断された。

遺物は、表土や包含層からは奈良時代の土師器片が比較的多量に出土したが、遺構からは少量である。特殊な遺物としては円面硯の破片１点、製塩土器片がみられる。

(3) ま と め

今回の調査は、面積も小さく、明瞭な遺構の検出にはいたらなかったが、今後は周辺地域の発掘調査の進展とともに、資料の蓄積と、周辺に分布する遺構の性格の解明がなされていく必要があろう。

掘立柱建物一覧表

調査次数	遺構番号	規　模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法(m) 桁行	柱間寸法(m) 梁行	時　期	備　考
96－4	SB6840	(6)×(2)	E3°N	(18.0)	(6.0)	3.0	3.0	平安　初期	
96－4	SB6841	－×(2)	E3°N	－	(6.0)	－	3.0	平安　初期	
96－4	SB6842	－×(2)	E3°N	－	(6.0)	－	3.0	平安　初期	
96－5	SB6845	(5)×２	E3°N	(12.0)	4.8	2.4	2.4	平安　初期	
96－5	SA6849	東西16間	E3°N	47.5		2.96 3.1		平安　初期	八脚門の西１間分のみ柱間3.1m
96－5	SB6850	(3)×(2)	E3°N	(9.0)	4.2	3.7 2.65	2.1	平安　初期	八脚門
※70－3	SA5110	南北(1)間	E3°W	(3.0)		3.0		平安　初期	SBをSAに変更

竪穴住居一覧表

調査次数	SB番号	規模(m)	長軸方向	深さ (cm)	柱穴	カマド	時　期	備　考
96－3	SB6821	－	－	10cm	－	－	奈良　前期	ＳＢ6822より古
96－3	SB6822	－	－	9cm	－	東壁	奈良　前期	
96－6	SB6856	－	－	23cm	－	－	奈良　後期	

付. 現状変更等許可申請と立会い調査

平成4年度の史跡現状変更等許可申請は41件で、その内6件（内3件は三重県教育委員会による計画調査）については年度内に発掘調査を実施した。また、昨年度から申請されていた3件（第95次、第96-1次、第96-2次調査）については、本年度の対応となったものである。本年度の申請のうち、現状変更の範囲の狭小なものや、工事が簡易なため地下遺構への影響がないとみられるものについては、斎宮歴史博物館調査研究課と明和町教育委員会斎宮跡保存対策課の職員による基礎工事の立会いを行った。

本年度の申請の状況は、次頁の一覧表に示したとおりである。なお、これらの申請は、（A）個人等による申請、（B）公共機関等による地域生活環境整備にかかわる申請、（C）史跡環境整備及び維持管理等に伴う申請、（D）計画的発掘調査のための申請に区分される。

（A）個人等による申請

個人による申請は25件で、先年度からの2件を含む6件が保存管理計画の第3種保存地区に位置するために、事前の発掘調査を実施した。第96-4次調査区と第96-5次調査区については遺構保存に向けて現在調整中であるが、他の4件については遺構に影響を及ぼさない工法をとることを条件として許可されている。

この他第4種保存地区にあたる17件については、担当職員の立会いを実施する事が条件として付されているが、現在協議中の4件を除き、いずれも地下遺構への影響がないと判断されている。

（B）公共機関等による地域生活環境整備にかかわるもの

全部で11件ある。先年度からの申請による町道拡幅に対して事前調査（第96-2次調査）を実施した他は、町道側溝の改修や電話通信線の付け替え、地質調査、水道管の埋設などがあるが、すべて立会いで対応した。水道管の埋設は総長2.5kmにも及ぶものだが、遺構面が確認された部分については埋管の深さを調節して遺構の保存につとめた。電柱の設置や地質調査のボーリングなど、掘削が深部に及ぶものも極めて狭小な面積にかかるもので、地下遺構には影響しなかった。

（C）史跡環境整備及び維持管理等にともなうもの

三重県教育委員会からの3件の申請がある。このうち2件は斎宮歴史博物館南の約4haの史跡整備にともなうもので事業地には全面2m～3mの盛土が施されている。

（D）史跡の実態解明のための計画調査にともなうもの

三重県教育委員会が実施するもので、本年度は3件（3,060㎡）が対象となった。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

平成４年度史跡現状変更等許可申請一覧

	申請地	種別	区分	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更申請面積	備考
1	斎宮2901－１	４種	A	宇田　兌	個人住宅の増築	4・4・9	4・4・18	455.3㎡	
2	斎王2876	４種	A	津田三郎	個人住宅の改築	4・4・20	4・5・8	546.69㎡	
3	斎宮3015	４種	A	高森四郎	個人住宅の増築	4・4・28	4・5・18	651.23㎡	
4	斎宮2484－２	４種	A	前田誠一	個人住宅の増築	4・5・21	4・5・30	293㎡	
5	斎宮2757－２	４種	A	宗教法人竹神社	神饌所の設置	4・6・9	4・6・22	2,185㎡	
6	竹川字古里・中垣内地内	1・3種	D	三重県教育委員会	計画的面調査	4・6・20	4・8・12	800㎡	第97次調査
7	斎宮596	４種	A	小津孝夫	個人住宅の改築	4・8・5	4・8・31	522.31㎡	
8	斎宮鍛冶山2745他	２種	D	三重県教育委員会	計画的面調査	4・9・1	4・10・12	1,360㎡	第98次調査
9	斎王地内	1・3種	B	明和町（水道課）	水道管の埋設	4・8・17	4・10・12	L＝2,525m	
10	斎宮・斎王地内	1・3種	B	ＮＴＴ伊勢志摩	電気通信線整備	4・8・19	4・9・7	電話柱５本 支線　３条	
11	斎宮3034－３	４種	A	大西伝七	個人住宅の改築	4・9・9	4・10・19	297.52㎡	
12	斎王地内	1・2種	B	明和町（建設課）	排水路の改修	4・9・14	4・10・20	L＝220.0m	
13	斎宮2928－１	４種	A	平田　収	個人住宅の改築	4・9・22	4・10・16	138.86㎡	
14	斎宮字古里3260	３種	A	清水五郎	個人住宅の新築	4・10・15	5・3・31	373㎡	第96－３次調査
15	竹川字神宮地内	３種	B	明和町（企画広報課）	地質調査	4・10・26	4・11・20	ボーリング １ケ所	
16	斎宮3773－３	４種	A	Ｋ．Ｋ．村田組	住宅兼事務所の増改築	4・10・27	5・6・14	991.68㎡	
17	斎宮地内	４種	B	明和町（建設課）	側溝改修	4・10・29	4・11・20	L＝53.8m	
18	斎宮128－３	３種	A	加藤すみ子	個人住宅の新築	4・11・9	5・7・27	297.26㎡	第96－５次調査
19	斎宮地内	４種	B	ＮＴＴ伊勢志摩	電話柱移転工事	4・11・10	4・12・4	電話柱１本	
20	竹川字古里地内	１種	C	三重県教育委員会	古里南部地区環境整備	4・12・18	5・3・3	約４ha	
21	斎宮3176－６	４種	A	鈴木武雄	個人住宅の改築	4・12・2	4・12・17	201.82㎡	
22	斎宮3038－18	４種	A	岩見哲人	農業用倉庫の建築	4・12・7	5・1・25	197.03㎡	
23	斎宮字木葉山137	３種	A	中川昌俊	個人住宅の建築	4・12・9	5・1・25	480.30㎡	
24	竹川503	１種	B	明和町（企画広報課）	観光案内標識の設置	5・1・8	5・1・26	１基	
25	斎宮地内	2・3種	B	明和町（建設課）	町道側溝の設置	5・1・18	5・3・12	463㎡	
26	斎宮字中西2749－１	３種	A	本山　尚	個人住宅及び倉庫の新築	5・2・3	協議中	457.12㎡	第96－４次調査
27	斎宮字東加座2431-3他	２種	A	北村純一	個人住宅の新築	5・2・5	5・3・12	661.52㎡	
28	斎宮111	４種	A	浜口八広	個人住宅の建築	5・2・5	5・3・2	235.48㎡	
29	斎宮3138－１	３種	A	藤井友二	個人住宅の新築	5・2・18	5・3・31	625㎡	第96－６次調査
30	斎宮2758－２	４種	A	岩見文夫	農業用倉庫の改築	5・2・22	5・3・10	651.03㎡	
31	斎宮2470－１，２	４種	A	上田義勝	個人住宅の増築	5・2・22	5・3・10	298㎡	
32	竹川字古里369－３	１種	C	三重県教育委員会	プレハブ仮設	5・1・22	5・3・24	41.5㎡	
33	斎宮内山3046－11他	１種	D	三重県教育委員会	計画的面調査	5・3・8	5・4・7	1,000㎡	第99次調査
34	斎宮字木葉山119-5番地	３種	A	澄野国雄	車庫兼物置の新築	5・3・1	5・8・5	198.97㎡	
35	斎宮字内山3047－17	３種	B	明和町教育委員会	標語塔の設置	5・2・26	5・3・22	1.44㎡	
36	斎宮地内	１種	C	明和町教育委員会	ハギの植栽	5・3・8	5・3・22	L＝110m	
37	斎宮2403,2401-2	４種	A	山路和正	個人住宅の改築	5・3・11	5・5・6	426.28㎡	
38	斎宮字楽殿2822－４他	３種	A	杉本雅之	個人住宅の新築	5・3・11	5・10・19	459.98㎡	
39	竹川257	４種	A	樋口修吾	個人住宅の改築	5・3・25	5・5・6	884.1㎡	
40	竹川字東裏274番地	４種	A	森下広美	建物の部分撤去	5・3・24	5・4・13	377.77㎡	
41	斎宮字牛葉地内	３種	B	明和郵便局	郵便ポスト移設	5・3・26	5・4・6	0.24　㎡	

図　　版

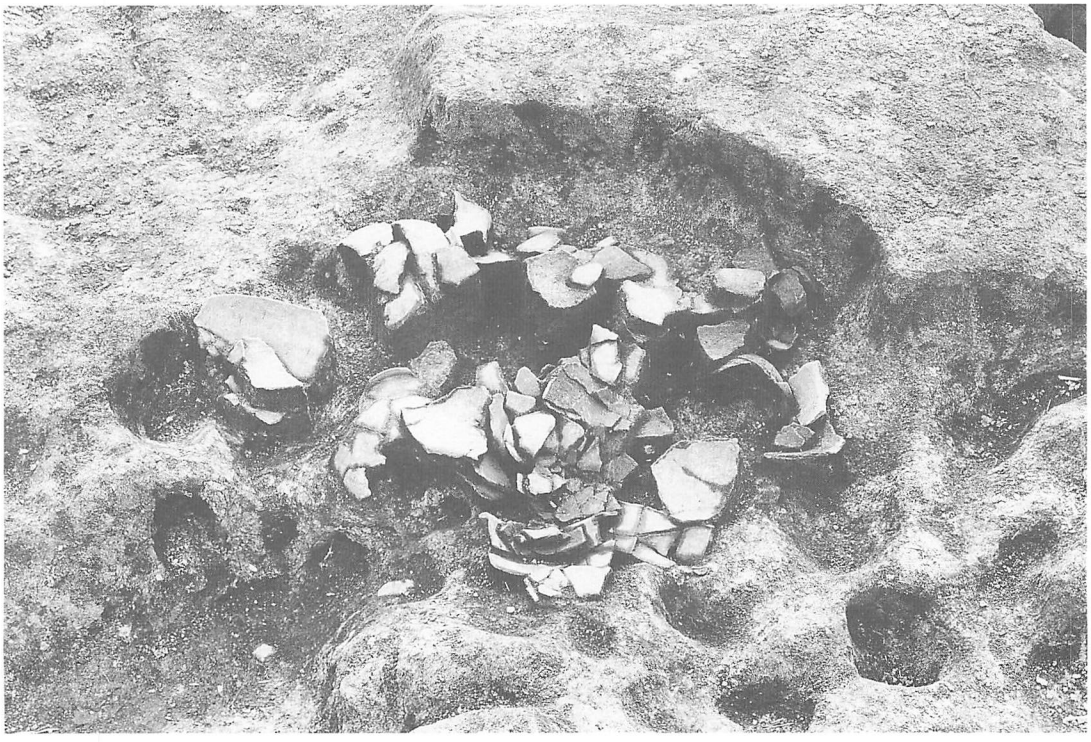
第96－１次調査区全景（南から）

ＳＤ0368（南から）

第96－２次調査　調査区西半（西から）

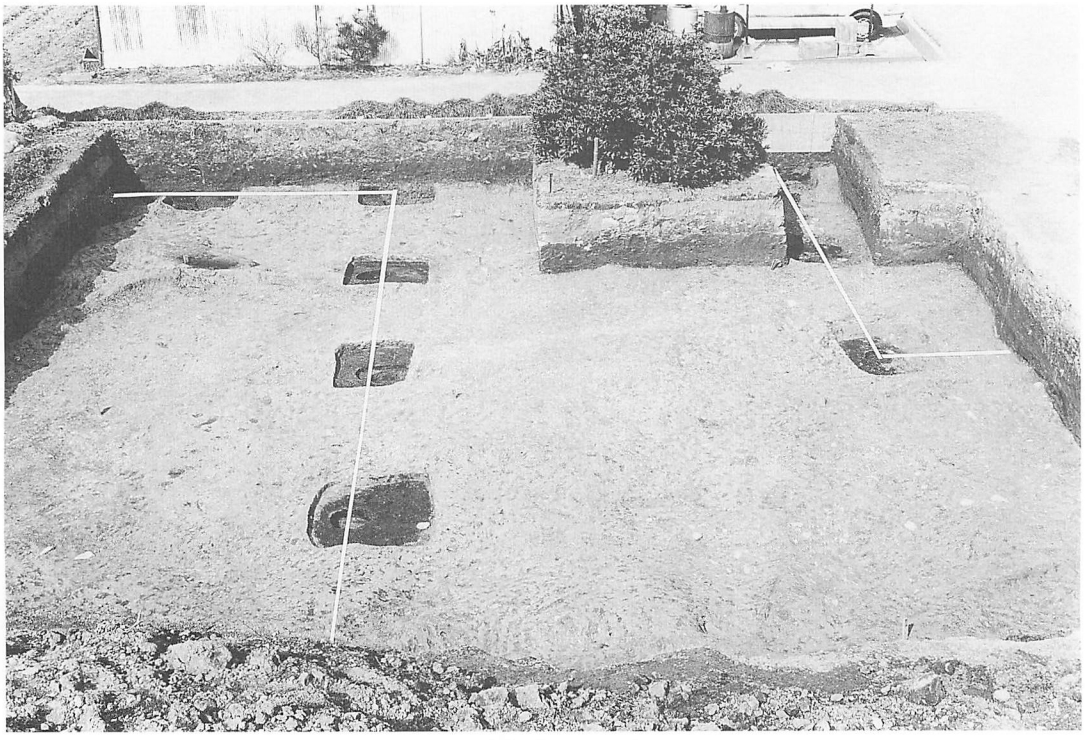
第96－２次調査　調査区東半（西から）

第96－３次調査区全景（南東から）

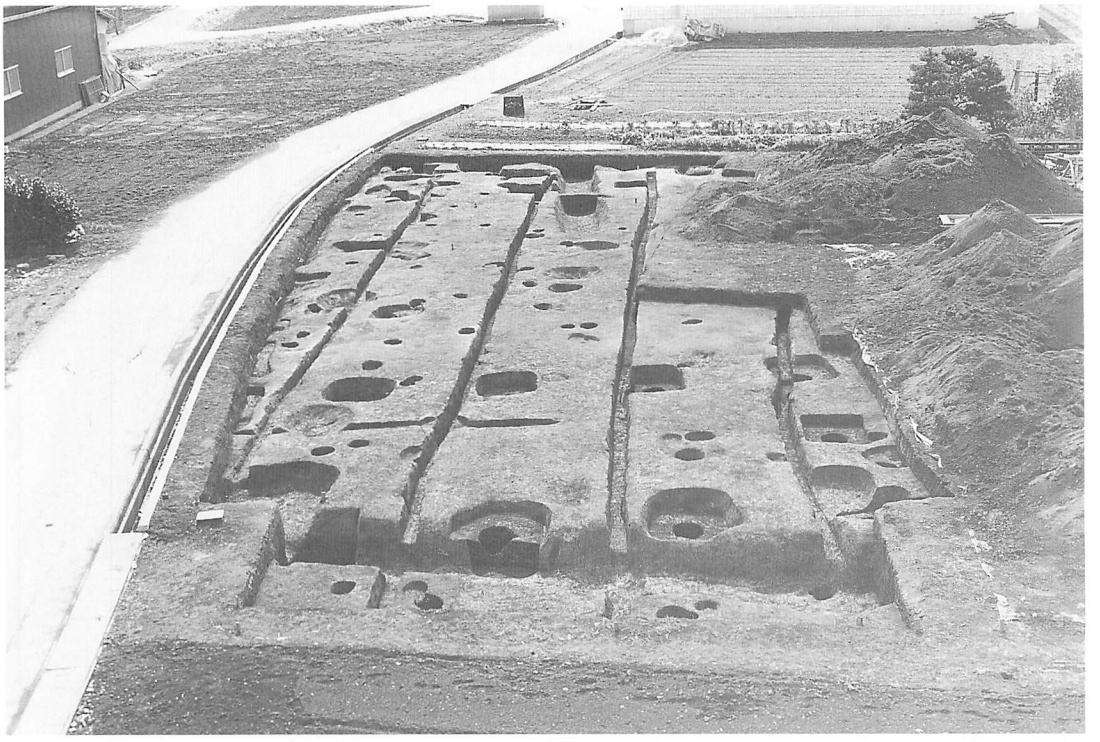


ＳＫ6824（南東から）

第96－４次調査区全景（西から）

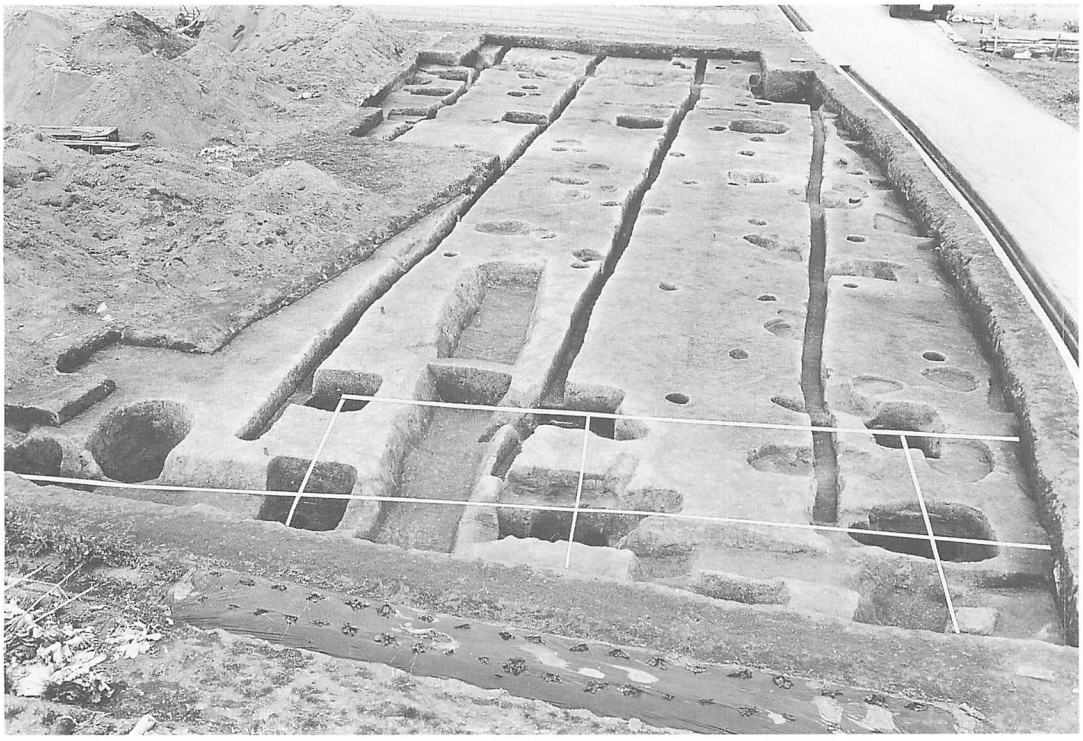


第96－４次調査区全景（南から）

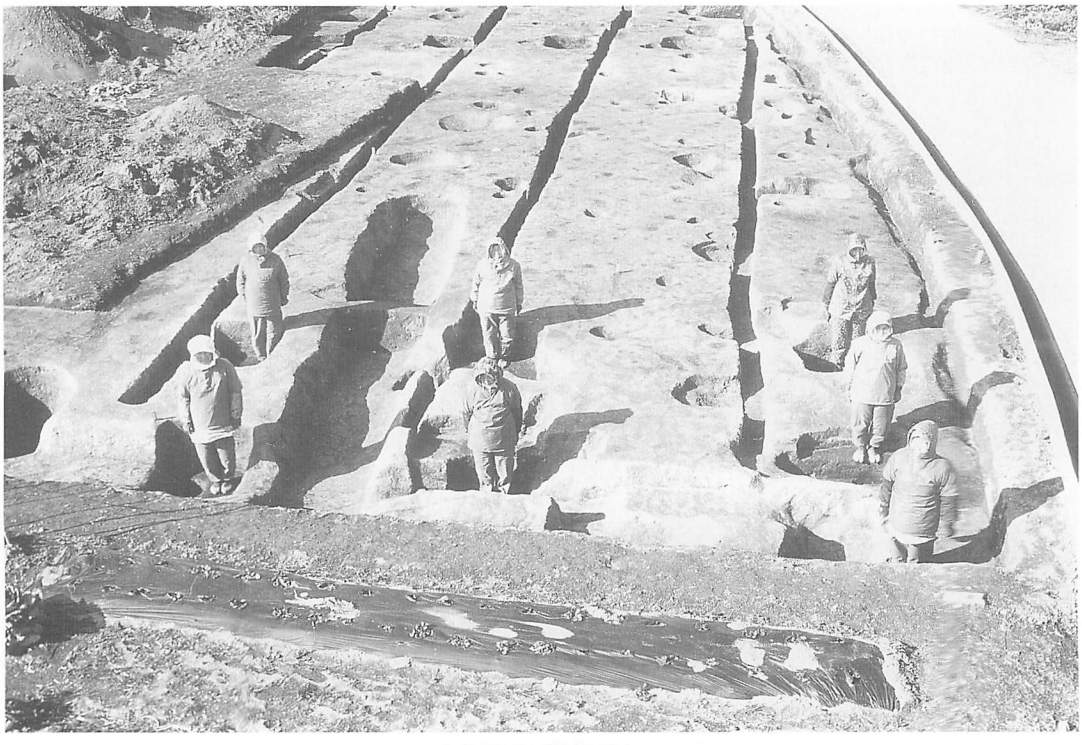


第96－5次調査区全景（北から）

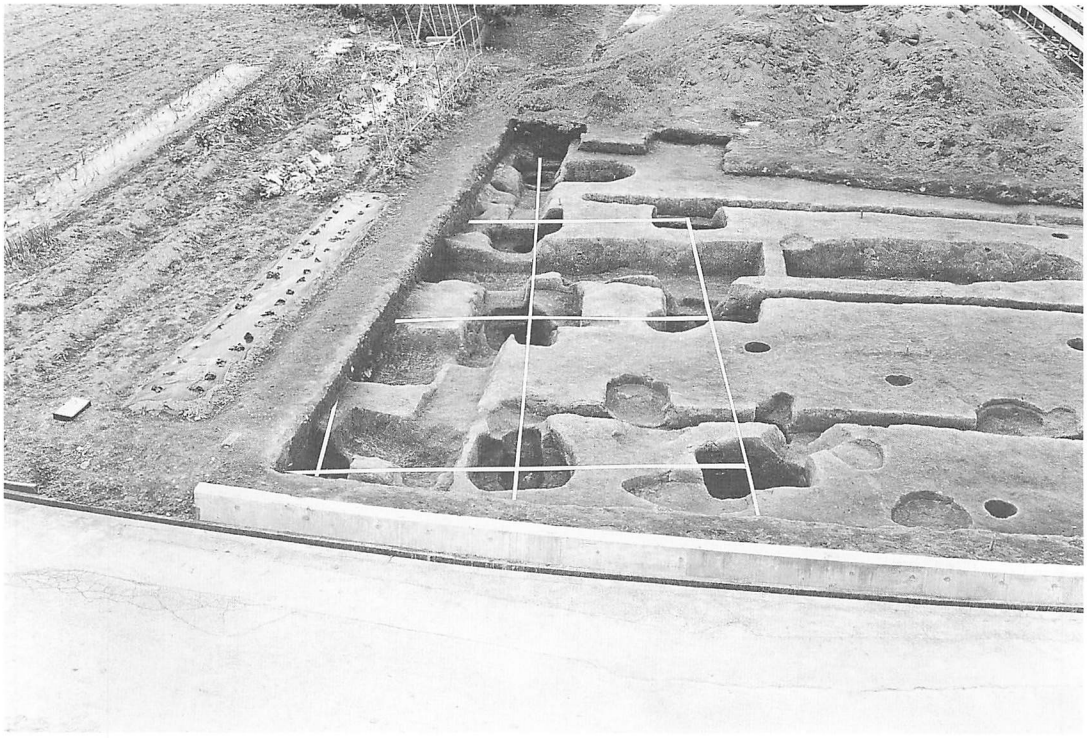
第96－5次調査区全景（東から）



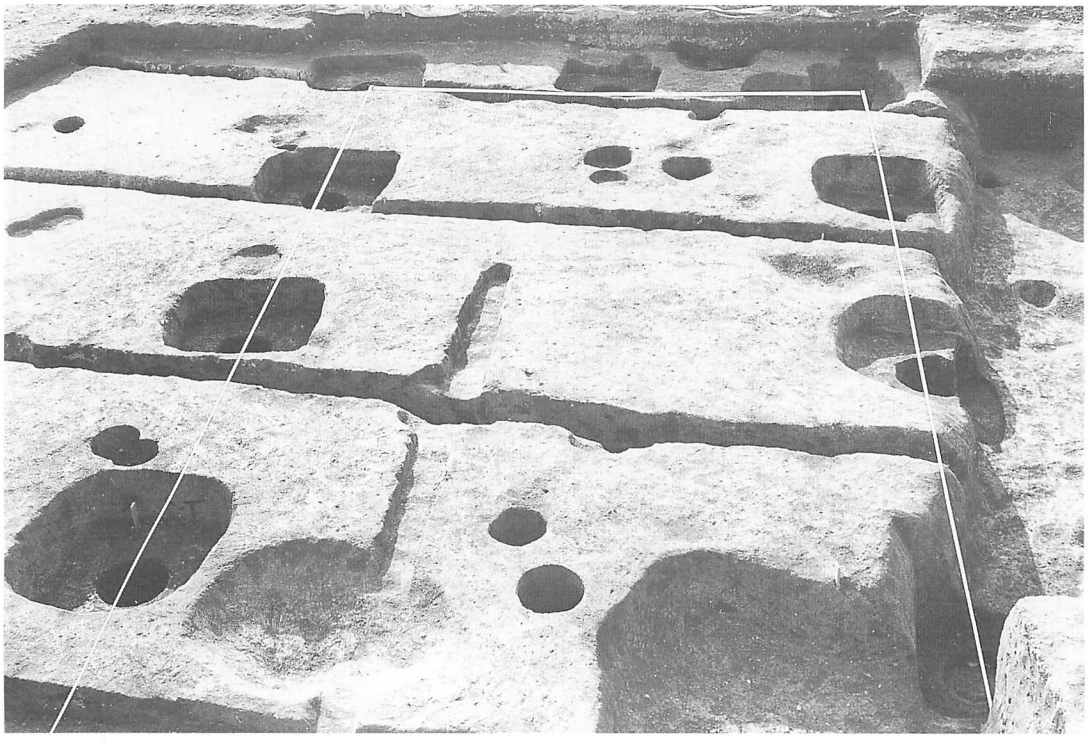
SB6850（南から）



SB6850（南から）



ＳＢ6850（東から）



ＳＢ6845（東から）

第96－６次調査区全景（東から）

ＳＢ6856（北から）

史跡斎宮跡
平成4年度現状変更緊急発掘調査報告

平成6年3月

編集　斎宮歴史博物館
　　明和町教育委員会
発行　明和町教育委員会
印刷　光出版印刷株式会社